

**GOSSEN**

*Digiflash* ゴッセン デジフラッシュ

---

取扱説明書

この度はゴッセン・デジフラッシュをお買い上げいただき、誠にありがとうございます。  
製品を安全で快適にお使いいただくため、本書をよくお読みいただき長くご愛用ください。

## 目次

<b>1</b> 取扱い上のご注意 -----	3	<b>6</b> 各機能説明 -----	9
<b>2</b> デジフラッシュの特長 -----	4	フィルム感度設定 -----	10
<b>3</b> 各部の名称 -----	5	定常光測定	
<b>4</b> デジフラッシュ仕様 -----	6	1. 定常光測光 -----	11
<b>5</b> デジフラッシュ機能		2. 測定値の読み取り -----	11
準備とチェック		フラッシュ光測定	
1. 電池について -----	7	1. シンクロスピードの設定 -----	12
2. 電池の交換 -----	7	2. フラッシュ光測光 -----	13
3. セルフテスト -----	7	測定範囲外の測光 -----	14
入射光・反射光測定モード		コントラスト測定 -----	14
1. 入射光方式 -----	8	露出基準値変更 -----	15
2. 反射光方式 -----	8	タイマー機能 -----	16
ディスプレイ表示の持続時間 -----	8	時計・アラーム機能 -----	17
		温度測定 -----	18
		<b>7</b> 保証・修理に関して -----	19

## 取扱い上のご注意 **1**

デジフラッシュは精密機器です。お取扱の際は特に以下にご注意ください。

- 本機を分解しないでください。また、内部には絶対に手を触れないでください。
  - 汚れを拭き取るのにシンナー、アルコールなど溶剤は使用しないでください。
  - 保管に関しては湿気(水気)、ホコリ、熱の影響の無い場所に収納してください。
  - 本製品は乳幼児の手の届かない場所で保管・使用してください。
  - 夏期、または熱帯地域での使用、保管は十分にご注意ください。特に高温の自動車内や湿気のある場所に長時間放置しないでください。
  - 低温下では電池の性能が低下します。低温下でのご使用の際は予備の電池を持つことをお勧めします。
  - ご使用の際は落下などの衝撃や振動、液体・砂・泥などの付着にご注意ください。
  - ストラップに取付けて本機を使用する際は、機材に引っ掛けたり、巻き付いたりしないよう十分にご注意ください。思わぬ怪我や事故、故障の原因となります。
  - 本書で指定された以外の電池は使用しないでください。電池を交換する際は、電池の極性(+)方向にご注意ください。
  - 電池室のトレーは本体から外れます。紛失や破損にご注意ください。
- ※尚、上記のご注意が守られない場合、保証期間内であっても、保証が適用されません。その他、保証に関してはP19の「保証・修理に関して」をご覧ください。

## 2 デジフラッシュの特長

---

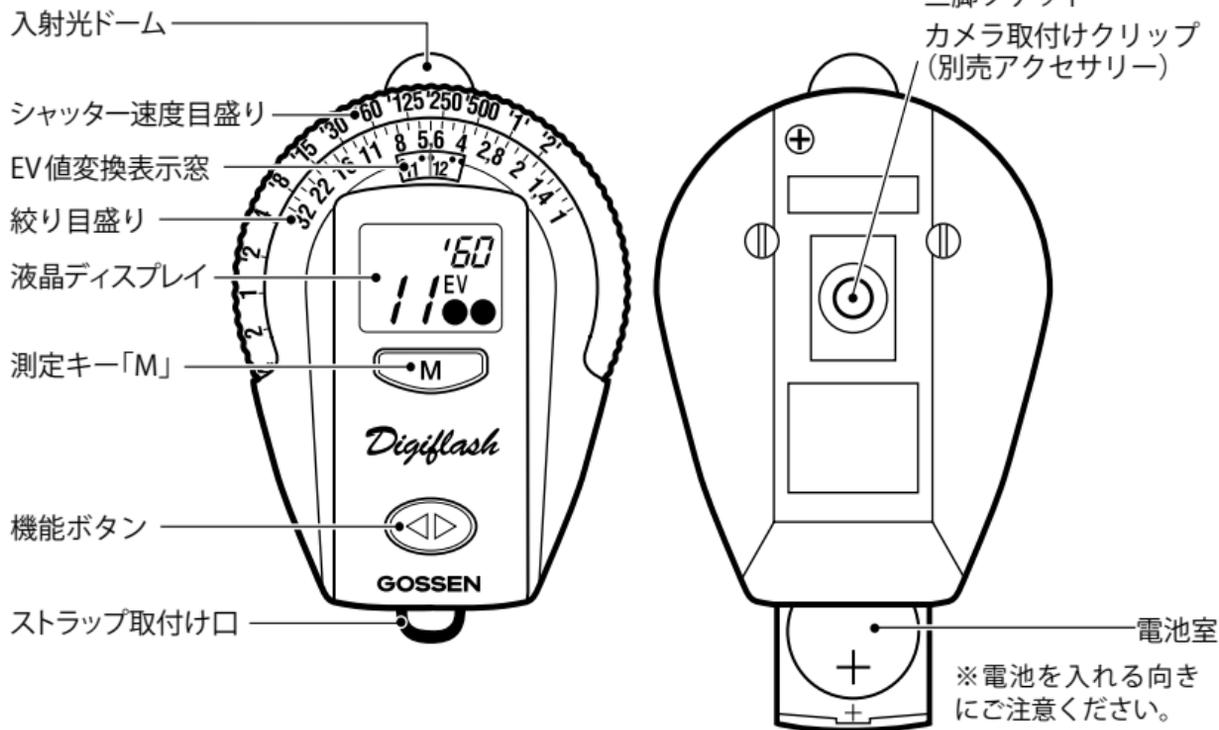
ゴッセン・デジフラッシュ(GOSSEN Digiflash)は、定常光/フラッシュ光用、デジタル表示の小型でスマートな露出計です。

デジフラッシュはゴッセンの高精度計測基準で設計され、コンパクトでありながら機能的と、操作性が非常に優れています。

### [デジフラッシュの主な特長]

- 入射、反射光測光モード
- 定常光、フラッシュ光測定
- マイコン制御
- LCDディスプレイにデジタル表示、1/3刻み
- 1/3EV値でコントラスト表示
- 測定結果を記憶
- 絞りとシャッター速度の組み合わせを全表示
- 測定範囲のオーバー/アンダー表示
- 自動電池チェック
- 長時間露出用減算タイマー
- 時計・アラーム機能
- 温度測定

## 各部の名称 **3**



## 4 デジフラッシュ仕様

メーター形式	デジタル露出計
測光モード	定常光 フラッシュ光
測光モード切替	入射光 反射光 コントラスト測定
光センサー	sbc フォトダイオード
測定範囲 (ISO100/21°)	定常光:EV 0 ~ 18 フラッシュ光:F 2 ~ F32
シャッター速度	t = 1/2000 秒 ~ 4分
シャッター シンク口速度	t = 1 ~ 1/500 秒 1/90 秒
絞り値	f = 1 ~ 32
調整値	± 3.0
フィルム感度	ISO 6 ~ 3200 1/3 段刻み
測定角度	約 25° (反射光モード)

タイマー	1 秒 ~ 30 分
時計	12 時間 / 24 時間表示
温度計	°C / °F 切り替え
測定範囲	- 15 ~ 70°C または + 5 ~ 160°F
精度	± 2°C、または ± 4°F
表示	液晶ディスプレイと セッティングリング
電池	3V リチウム電池 CR2032 × 1 個
使用温度範囲	-10°C ~ 60°C
サイズ	約 70 x 50 x 23mm
重さ	約 40g (電池を含む)
付属部品	電池、ケース、ストラップ
別売 アクセサリ	カメラシュー取り付け用 クリップ

## 準備とチェック

### 1. 電池について

デジフラッシュの電源は3V電池、CR2032型1個です。電池が弱るとディスプレイにBATが表示されます。

### 2. 電池の交換

- ・ディスプレイに**BAT**のみ表示された時は、測光を止めて電池を交換してください。
- ・ストラップ取付け口の下にある電池室からトレーを引き出します。
- ・トレーから古い電池を取り出し、背面側に新しい電池の+がくるように交換します。+-を間違えないようにご注意ください。
- ・電池室にトレーを戻します。

#### ご注意

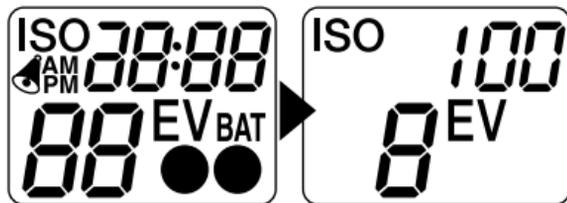
電池を交換するとメモリー内のデータは全て消えます。

### 3. セルフテスト

新しい電池を入れると、マイコンはセルフテストを実行し、ディスプレイに各種の表示が現れます。[図1]

セルフテストは約10秒程度続きますが、この間にいずれかのボタンを押すとテストは中断します。

テスト後は標準設定がディスプレイに表示されます。[図2]



[図1]

[図2]

[標準セッティング表示]

ISO 100/21° COR 0 EV 8

## 5 デジフラッシュ機能

---

### 入射光・反射光測定モード

#### 1. 入射光方式

入射光モードの場合、入射光ドームを左に移動し、測光窓の前に置きます。入射光による測光は、比較的的確な露出を得ることができます。このモードは露出計を被写体からカメラに向けて測光します。これにより写真のトーンは被写体と一致します。

特に明るい被写体、暗い被写体、コントラストが強い被写体といった難しい条件では有効な方法です。

#### 2. 反射光方式

反射光モードの場合、入射光ドームを右に移動し、測光窓にかからないようにします。測光は露出計をカメラの位置から被写体に向けて行います。この方法は被写体が反射した光だけを測定することになります。

よって測定値は被写体の反射能力に左右されるため、明るい被写体は暗めに写りがちで、適正に露出されない場合があります。この方法は被写体の明部と暗部の差があまり大きくない時には便利です。

### ディスプレイ表示の持続時間

デジフラッシュは、常に最後に使用した機能の結果を表示しています。非常に少ない電力消費量で、自動的に電源が切れることはありません。

## 各機能説明 6

機能ボタン◀▶を押してデジフラッシュの機能を順次を選択します。ボタンを押すたびに、機能は順次に起動します。[図3]  
ディスプレイは次の順番で機能を表示します。

- 定常光測定
- フラッシュ光測定
- タイマー
- 時計
- アラーム
- 温度

次の機能は機能ボタンをいったん離さないと起動しません。機能ボタンを2秒以上押したままにすると、その機能がディスプレイに表示され、要望によって調整できます。



[図3]

## 6 各機能説明

### フィルム感度設定

- 「定常光測定」機能を選択し、信号音が鳴るまで機能ボタンを押し続けます。



- ディスプレイの**ISO** が点滅します。[図4]
- 次にフィルム感度を選択します。
- 測定キー「M」を押し続けるとフィルム感度 (ISO) が上がります。求める値に近付いたらキーを放し、一回ずつキーを押して求める値に設定します。キーを一度押すごとに感度 (ISO) は1/3刻みで増えます。

- 機能ボタンを、信号音が鳴るまで押し続けるとディスプレイに**EV**が表示されます。



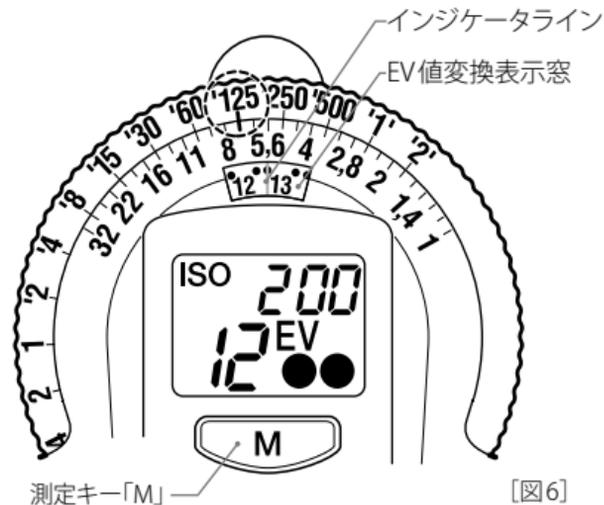
- 選択したフィルム感度はディスプレイの右上に表示されます。[図5]
- 使用フィルムの感度が変わった時は、速やかに設定をやり直し、記憶した感度を変更します。一度記憶された感度は、新たに設定するかバッテリーを外すまで残ります。

※選択したフィルム感度は周囲光とフラッシュライトの両方に対して有効です。

## 定常光測定

### 1. 定常光測光

機能ボタンを押して「定常光測定」を呼び出します。測定キー「M」を短く押すと測光が行われます。



[図6]

### 2. 測定値の読み取り

測定したEV値がディスプレイに表示されます。EV値の後ろの●は一つが1/3刻みです。●●と出れば2/3です。

- EV値変換表示窓の数値を、シャッター速度ダイヤルを回してディスプレイ表示された測光値に合わせます。(赤いインジケータの真下に正確に合わせてください) [図6]

- 絞り値目盛りとシャッター速度目盛りが合ったところが適正露出値です。(1/90は1/60から1/125の間で読み取ります)。

ISO 200 = 12●● (12 2/3) で 1/125 とすれば、5.6 2/3 絞りという意味です。 [図 6]

## 6 各機能説明

### フラッシュ光測定

#### 1. シンクロスPEED (測光時間) の設定

- 機能ボタンを押して「フラッシュ測光」を選択します。シンクロタイムの前の小さなストロークがディスプレイに表示されて「フラッシュ測光モード」であることを知らせます。[図7]
- 信号音が鳴るまで機能ボタンを押し続けます。ディスプレイに“t”が表示され、シンクロタイムが点滅状態になります。[図8]
- Mキーを使って1秒～1/500秒の範囲内で希望のシンクロスPEEDを入力し、信号音が鳴るまで機能ボタンを押し続けます。

フラッシュ測光  
モード表示



[図7]

シンクロタイム



[図8]

## 2. フラッシュ光測光

・Mキーを押します。ディスプレイに“F”が表示される30秒間は測光の準備が整っていることを示します。[図9]

・フラッシュを使用します。[図10]

・EV値変換表示窓の数値を、シャッター速度ダイヤルを回してディスプレイ表示された測光値に合わせます。(赤いインジケータの真下に正確に合わせてください)  
[図11]

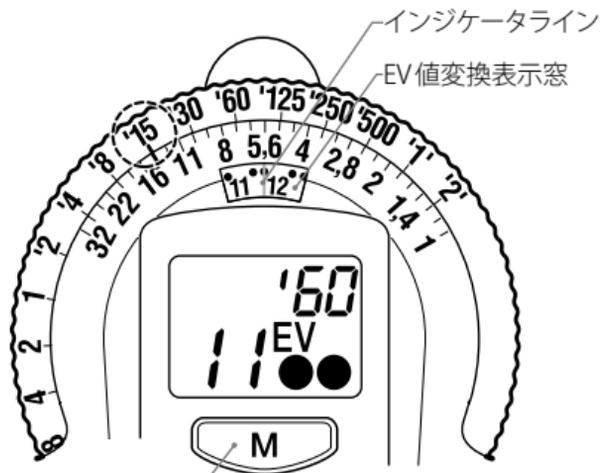


[図9]



[図10]

・絞り値目盛りとシャッター速度目盛りが合ったところが適正露出値です。(1/90は1/60から1/125の間で読み取ります)。



[図11]

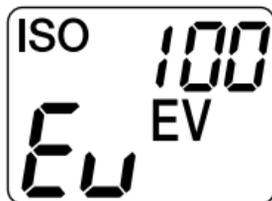
## 6 各機能説明

### 測定範囲外の測光

デジフラッシュは測定範囲外の値は表示しません。ディスプレイには

$E_u$  暗過ぎる [図12]

$E_n$  明る過ぎる [図13]  
の表示がでます。



[図12]



[図13]

### コントラスト測定

- 機能ボタンを押して「定常光測定」を選択します。
- 測定キー「M」を押し続けると、露出計はコントラスト測定に切り替わります。キーを押したまま、被写体の数箇所を測定します（1箇所約2秒必要です）。ディスプレイには、最初の測定値と2回目以降の測定したEV値の差が表示されます。

測定キー「M」を離すと最初の測定値が再び表示されます。



[図14]

## 露出基準値変更

工場出荷時の設定を変えることができます。

- 電池をいったん取り出し、再び入れ直すと露出計はセルフテスト（電池のチェック）を行います。＜P7「セルフテスト」参照＞
- セルフテスト中に、機能ボタンと測定キーを、信号音が鳴るまで押し続けてください。キーをいったん離します。
- ディスプレイの**EV**が点滅します。[図15]値の設定、変更するには測定キー「M」を使用します。
- 機能ボタンを再度押して、測定モードに戻します。
- ディスプレイの**EV**は点滅を続けます。これは基準値が変更されていることを忘れないようにするためです。変更は1/3段刻みに±EVまで可能です。
- 基準値変更をキャンセルするには、電池を取り出して、入れ直します。
- 露出オーバーにするにはプラス、露出アンダーにするにはマイナスに変更します。



[図15]

## 4 各機能説明

### タイマー機能

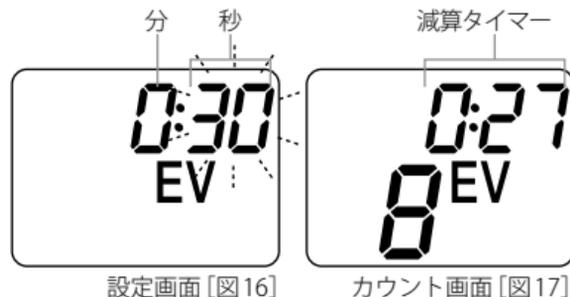
デジフラッシュには長時間露出などに便利な1秒～30分までのタイマー機能が組み込まれています。(減算タイマー)

#### [タイマーの設定]

- 機能ボタンを押して「タイマー」を選択します。信号音が鳴るまで押し続けると、「分」または「秒」が点滅します。[図16]  
この時ディスプレイには前回に設定した値が表示されます。
- 点滅している「分」または「秒」の数値を、それぞれMキーを押して設定します。(機能ボタンを押すごとに「分」と「秒」の点滅が入れ代わります)
- 分/秒の設定後、機能ボタンを信号音が鳴るまで押し続けて設定します。

#### [タイマーの使い方]

- Mキーを押すとタイマーが起動し、ディスプレイは残り時間を示します。[図17]  
最後の10秒間は断続した信号音が鳴り、最後に連続音に変わって終了します。
- カウントダウンを止めるにはMキーを押します。もう一度押すと再スタートします。タイマーは背景で動くので、露出計の他の測定機能は関係なく作動します。



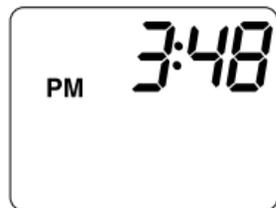
設定画面 [図16]

カウント画面 [図17]

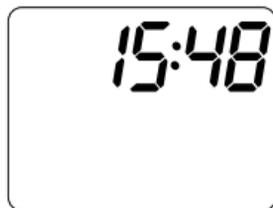
## 時計・アラーム機能

## [時計表示・時間設定]

- 機能ボタンで「時計」を選択します。信号音が鳴るまで機能ボタンを押し続けると"12"または"24"が点滅します。
- 「M」キーで12時間 [図18] または24時間 [図19] 表示を選択し機能ボタンで決定します。



[図18]



[図19]

- 次に「時間」が点滅します。「M」キーで選択し、機能ボタンで決定すると「分」が点滅するので同様に設定します。信号音が鳴るまで機能ボタンを押すと設定は完了します。

## [アラーム設定]

- 機能ボタンで「アラーム」を選択します。信号音が鳴るまでボタンを押し続け、時計の設定と同様にアラーム時間を設定します。
- 信号音が鳴るまで機能ボタンを押すと設定は完了します。
- アラームの起動と解除は「M」キーで行います。アラームが動いているとディスプレイにベルのシンボルが表示されます。[図20]

アラームは1分間、1秒刻みで鳴ります。測定キーか機能ボタンを押すとアラーム音は止まります。



[図20]

## 6 各機能説明

### 温度測定

機能ボタンで「温度測定」を選択します。(温度測定は2分間隔で自動的に行われます)

※本体内蔵の温度測定プローブのため、手に持って測定すると体温が影響します。カメラに取り付ければ体温は影響しません。

[°C(摂氏)と°F(華氏)表示切り替え]

°C(摂氏) [図21]と°F(華氏) [図22]表示の切り替えは、「温度測定」モードの状態です。信号音が鳴るまで機能ボタンを押し続けます。



[図21]



[図22]



[図23]



[図24]

[最高・最低温度]

「温度測定」モードの状態です。「M」キーを押すごとに温度測定中の最低温度 (Lo) [図23]と最高温度 (Hi) [図24]が表示されます。これは前回のリセット後に測定された最高・最低温度です。これによりデジフラッシュと一緒にあればフィルムが非常に高い温度に接していないか常にチェックできます。最高・最低温度のリセットは「M」キーを信号音が鳴るまで押します。

### [修理に関するご注意]

保証期間内でも以下に記載のような場合は有料となります。

※保証書が無いもの、または保証書に必要な事項の記載が無いもの

※弊社サービス以外での分解修理・清掃・点検されたもの

※火災、地震、風水害など、天災により故障が発生した場合

※本取扱説明書で禁止した事項 (P3) が守られず、故障が発生した場合

※お取り扱い上の不注意 (取扱説明書以外の誤操作、落下、衝撃、水分・砂・泥・その他汚れの付着や、露出計、カメラ内部への入り込みなど)

※保管上の不備 (高温多湿や、極端な寒冷地、液体に触れる恐れのある場所での保管)、お手入れの不備 (かびの発生やホコリによる故障など) により生じた故障

※上記以外で弊社の責に帰すことのできない原因により生じた故障

本製品の修理に関するお問い合わせは  
カスタマーサポート係

**TEL. 048-299-3246**

(土日・祝祭日を除く)

株式会社駒村商会 物流センター内  
〒335-0031 埼玉県戸田市美女木8-13-3

GOSSEN 日本総代理店



株式会社駒村商会

〒 103-0013

東京都中央区日本橋人形町 3-2-4 駒村ビル

TEL. 03-3639-3351 FAX.03-3808-0115

- "GOSSEN" "ゴッセン"はドイツ・ゴッセンGmbH社の登録商標です。
- この取扱説明書は2010年4月現在のものです。
- この取扱説明書に記載の製品の外観・仕様に関しては予告無しに変更される場合があります。

[www.komamura.co.jp](http://www.komamura.co.jp)